

風土記の丘の花だより¹⁰³

今、そしてこれから見られる植物(2021年9月18日)

気が付けばもう9月も中旬、ヒガンバナがそろそろ咲き始めています。ツクツクボウシはまだ頑張っていますが、季節はいよいよ秋ですね。



この写真だけご覧になって、何の花か分かる人は、かなりの「ツウ」でしょう。じつはヌルデの花です。この花を間近でこれだけアップで見るとは恐ろしくないでしょうね。ヌルデはウルシ科の植物で、葉はハゼノキのような羽状複葉です。でも、毛深く軸に「よく」と呼ばれる幅広い部分があるので、ハゼの木の仲間とは簡単に見分けられます。花は遠くから眺めると、白っぽく見えます。



昔からヨシかアシかと言われますが、一般的にはヨシという方が多いような気がします。「良し」と「悪し」にひっかけて、ヨシの方がいいと言うことになったとか、ならなかったとか……。万葉植物園にも少しだけ植えていますが、谷山家住宅の北側の池の岸には自生の株が群生しています。今ちょうど穂が出ています。この草の根は水を浄化することが知られています。ギボウシにしては少し色の濃いナンカイギボウシの花が咲いています。写真は谷山家住宅の庭で撮りましたが、万葉植物園でも見られます。ナンカイは南海のことですが、どうして南海なのか調べてみると、近畿の南部、いわゆる南海道の辺りから南に分布するからだそうです。



最後は地味なアカネ科の草です。名前はハシカグサ。ハシカとは病気のはしか、麻疹のことでしょうか？牧野富太郎でも「名前の語源は不明」と言っています。珍しくはありませんが、そのへんにいくらでも生えている草、というわけでもありません。花があまりにも小さく、見つけることは困難です。写真を撮った柳川家の南の群落も偶然見つけました。でも見つけて嬉しい花でもないでしょうね。松下

